

## 建設環境委員会

官民連携のまちづくりを目指して

### 視察報告

実施日 令和7年11月5日(水)～6日(木)

#### 視察事項

##### ●岐阜県大垣市

官民連携によるまちづくりについて

##### ●愛知県一宮市

官民連携によるまちづくりについて



一宮市にて説明を受けるようす

### 参加者

酒井英男 橋本亜矢 三浦和也 町田昌弘 加賀谷勉 内藤光雄

※大島政教委員は欠席

建設環境委員会では、岐阜県大垣市と愛知県一宮市を視察し、駅周辺にぎわい創出や公共空間の利活用、官民連携によるエリアマネジメントの取り組みについて調査しました。

### ●岐阜県大垣市

大垣市では、コロナ禍を契機に始まった「まちなかテラス」事業について確認しました。道路占用特例制度を活用し、歩道に人工芝のテラス席を設けることで、安心して滞在できる空間を創出した取り組みです。市が道路・公園使用の申請を一括して行い、一般社団法人大垣タウンマネジメントが出店調整や運営を担うなど、官民の役割分担が明確で、継続しやすい仕組みとなっていました。また、駅前の湧水スポットや水辺空間を生かした「かわまちテラス」「水都大垣えきまえビアガーデン」など、まちなか全体で回遊性を高める施策が展開されており、実際に現場を確認する中で、その工夫と魅力を肌で感じ、水都としての価値を改めて実感しました。



「水都大垣 出会いの泉」の解説を聞くようす

一宮市では、歩いて楽しいまちなかを目指す「ウォーカブル推進事業」について説明を受けました。駅周辺は一日約8万人が利用する地域最大の拠点であるにもかかわらず、まちなかへ人が流れにくい課題があることから、社会実験「ストリートチャレンジ」を継続的に実施し、滞在空間の創出や歩行者の増加に取り組んでいました。市民団体や事業者、行政が参画する「まちなか未来会議」を設置し、将来ビジョンを共有しながら官民連携を進めている点が特徴的でした。また、歩行者利便増進道路制度を活用し、商品陳列やテラス席の設置など日常的なにぎわいづくりに挑戦している取り組みについても説明を受け、実証を重ねながらルールづくりや空間活用を進めているプロセスを学ぶことができました。

### ●愛知県一宮市

一宮市では、歩いて楽しいまちなかを目指す「ウォーカブル推進事業」について説明を受けました。駅周辺は一日約8万人が利用する地域最大の拠点であるにもかかわらず、まちなかへ人が流れにくい課題があることから、社会実験「ストリートチャレンジ」を継続的に実施し、滞在空間の創出や歩行者の増加に取り組んでいました。市民団体や事業者、行政が参画する「まちなか未来会議」を設置し、将来ビジョンを共有しながら官民連携を進めている点が特徴的でした。また、歩行者利便増進道路制度を活用し、商品陳列やテラス席の設置など日常的なにぎわいづくりに挑戦している取り組みについても説明を受け、実証を重ねながらルールづくりや空間活用を進めているプロセスを学ぶことができました。

今回の視察を通じ、官民が協力し、市民が主体となってまちなかを育てていく姿勢を強く感じました。本市の駅周辺整備やにぎわい創出施策を検討する上でも、多くの示唆を得ることができました。今後の議論や具体的な取り組みの検討に生かしてまいります。